

STAGE+を楽しむ(260)(HP 収載)
—ブルッフのヴァイオリン協奏曲第 1 番—

1. 始めに

前報(259)に引き続き、STAGE+のブルッフのヴァイオリン協奏曲第 1 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、STAGE+のブルッフのヴァイオリン協奏曲第 1 番の演奏を選びました。

ボムソリとフルシャの共演によるブルッフのヴァイオリン協奏曲第 1 番
コンサート

バンベルク交響楽団

収録日: 2025 年 6 月 1 日

国際的なキャリアを重ねる韓国人ヴァイオリニスト、ボムソリと首席指揮者ヤクブ・フルシャ率いるドイツの名門バンベルク交響楽団との共演の模様をお届けします。芸術の殿堂（ソウル）で収録された本プログラムの幕開けを飾るのは、21 歳のワーグナーによる最初のオペラ《妖精》。マックス・ブルッフの人気作、ヴァイオリン協奏曲第 1 番では、ボムソリが誘う 19 世紀ドイツ・ロマン派の真骨頂をお楽しみいただけることでしょう。ワーグナーが「舞踏の神化」と称したベートーヴェンの傑作、交響曲第 7 番の熱狂冷めやらぬ演奏にもご期待ください。

ソリスト:

キム・ボムソリ（ヴァイオリン）

演奏:

バンベルク交響楽団

指揮:

ヤクブ・フルシャ

曲目:

リヒャルト・ワーグナー 《妖精》序曲

マックス・ブルッフ ヴァイオリン協奏曲第 1 番ト短調 op. 26

キム・ボムソリ(ヴァイオリン)

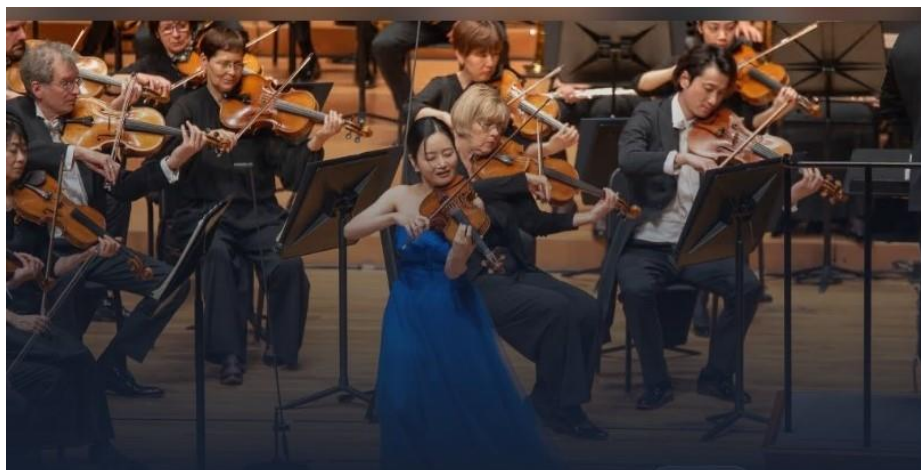
グラジナ・バツェヴィチ ポーランド奇想曲

キム・ボムソリ(ヴァイオリン)

フリッツ・クライスラー 《美しきロスマリン》

(ガブリエレ・カンパーニャによる無伴奏ヴァイオリンのための編曲版)

キム・ボムソリ(ヴァイオリン)
ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン 交響曲第7番イ長調 op. 92
ヨハネス・ブラームス ハンガリー舞曲集 WoO 1
(抜粋 アントニン・ドヴォルザークによる管弦楽編)



3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への Crystal EpY-G の接続を継続し、PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結しています。また、ルーター→スイッチングハブ間とスイッチングハブ→PC 間の LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、OPT ISO BOX の AC アダプターの DC ケーブルに FX Audio の Petit Susie Solid State を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

今回も、OPT ISO BOX の導入(21)で設定したように PC の受信から GPS クロックを入力した SWD-DA20 に送り出して再生しています。

ワーグナーの《妖精》序曲は始めて聴くもので、ワーグナーらしくストーリーを思い起こさせるような曲です。

ブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番は、ボムソリのソウルでの凱旋公演です。フルシャとのコンビの演奏は、STAGE+を楽しむ(249)でも報告したアルバムもあり、ぴったり息のあった演奏で、艶のある音色でダイナミックに歌い上げています。アンコール曲は、バツェヴィチのポーランド奇想曲とライスラーの《美しきロスマリン》ですが、美しきロスマリン》はカンパーニャによるジプシー音楽風の編曲版でともにボムソリの演奏技量が発揮されていました。

ベートーヴェンの交響曲第7番とブラームスのハンガリー舞曲集はお馴染みの曲です。ベートーヴェンの交響曲第7番は、フルシャの正統派の指揮でバンベルク交響楽団から重厚で荘重なベートーヴェンが引き出されています。ブラームスのハンガリー舞曲集は、大編成のオーケストラ版で聴くのは初めてですが、軽快で迫力のある演奏です。



4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune に Crystal E を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX を適用し、さらに GPS クロックを入力した SWD-DA20 に送り出して再生した結果、ボムソリの艶のある音色で技巧に富んだフレイジングが発揮され、フルシャ指揮バンベルク交響楽団の重厚な演奏も聴けました。

以上